

人を育み 夢を育む 未来につながるまち ふっさ

福生の教育



福生市公式キャラクター
たっけー☆☆

—編集 発行—

福生市教育委員会
教育部 教育総務課

〒197-8501
福生市本町5番地
042-551-1511
(市役所代表)

主な記事 ○就学時健康診断を実施します ○福生の中学生、部活動も活躍しています! ○新教育委員紹介

健康で充実した生活を送るための力を育む教育の推進 ～市内小中学校では、現在、歯みがき指導に取り組んでいます～

実践紹介 小中連携した歯みがき指導

歯の健康意識を高める取組として、環境づくりの工夫が効果的です。

歯の健康について学級に掲示をしたり、6月のむし歯予防月間に学校司書が図書室に特設コーナーを設置した学校もあります。



学校図書室特別展示
福生第五小学校

望ましい生活習慣の定着は、小学校だけの取組ではなく、小中一貫した指導が大切です。

福生第一中学校では、生徒の歯みがきの様子を次のようにブログで紹介しています。

「歯みがきすると、むし歯や歯周病の予防だけでなく、感染症の予防や健康づくりにつながります。」



福生第一中学校 学校ブログ

「習慣は第二の天性」 歯みがきを通じて、よい習慣を

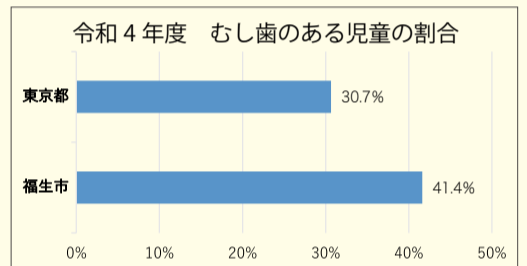
習慣は、いつの間にか深く身に付いて、まるで生まれつきの性質のように、日常生活に影響を及ぼすものです。毎日家庭学習をする、読書をする等のよい習慣の定着は、その人にとって一生の力となります。

福生市の小学生はむし歯が多い事が分かっています。また、むし歯の治療に歯科を受診する児童は、むし歯のある児童の半数という現状があります。そこで市教育委員会は、令和6年度、小中学校全校で、次の3つの取組を推進しています。ご家庭でも、ぜひ、ご協力をお願いします。

取組1 歯みがき指導

取組2 むし歯治療の励行

取組3 福生市歯科医師会との連携



実践紹介 福生市歯科医師会との連携 健康教育部会

学校では、年に1度、6月までに、定期健康診断を行います。そのため、養護教諭は、自校の子どもたちのむし歯の状況を把握しています。令和6年度、福生市立学校教育研究会健康教育部会は、福生市歯科医師会から講師を招いて、歯の健康について、特に予防と治療の大切さについて、講演を聞き、協議を行いました。

今後も、各学校の学校歯科医はもとより福生市歯科医師会との連携による取組を推進していきます。



健康教育部会の様子(令和6年7月)

福生市歯科医師会も協力します!

福生市歯科医師会 会長 好士 連太郎

むし歯になると、自然には治りません。そのため歯科の受診は定期的に行うべきと考えます。実際にお子さんの口の中を拝見すると、むし歯がなくても歯肉炎を認めることはよくあり、「歯みがき、がんばってほしいなあ」と思うことがよくあります。

福生市歯科医師会では教育委員会と連携して、むし歯予防とお口の環境づくりに取り組んでいます。

保護者の皆さんも、家族で通える歯医者さんを見つけてください。



◎子どもの医療費助成制度(マル子医療証)もあります

◎ご家庭でも、歯みがきなど、望ましい生活習慣の習得について、親子で話題にしてください

マル子医療証についてはこちら→



実践紹介 歯科衛生士を学校に招いた歯みがき指導

これまで福生市では、6月のむし歯予防月間等で歯みがき指導をしていましたが、日々の給食後の歯みがきは行っていませんでした。令和6年度からは、全小学校が共通した取組として、食後の歯みがきをしています。

それに伴い、「正しい歯みがきの仕方」「ブラッシングのコツ」「歯みがきがなぜ必要なのか」等について、歯科衛生士を学校にお招きし、養護教諭や学級担任も加わって、ワークシートや歯垢染色液を用いた歯みがき指導を行っています。



福生第一小学校 高橋歯科衛生士による歯みがき指導



福生第二小学校 公立福生病院・小林歯科衛生士による歯みがき指導

「好きこそものの上手なれ」まさに言い得て妙な表現だと思います。中学校三年生だった私は、国語の授業で読んだ魯迅という作家の「故郷」という作品にとても感動しました。そのとき感じた「他の作品も読みたい、もっと学びたい」という熱い思いを今でも鮮明に覚えています。その次に「もっと学びたい」と感じたのは大学三年生のときの英語教育の授業でした。担当の先生に心酔し、研究室に入り浸ったり、関係する書籍を読み漁ったりしました。現在、子どもたちが身に付けるべき資質・能力の一つに「学びに向かう力、人間性等」があります。この「学びに向かう力」を育むことはなかなか難しいです。自分も中学校三年生以降、大学三年生で再び意欲を持つまでブランクが長かったです。では、それ以外に学びに向かう力はなかったのかと考えると、興味のあることについては努力してきた気がします。例えば小学生からの趣味である釣りに関しては、どうしたら沢山釣れるか、上手な大人たちに質問しました。中学から始めたギターも、どうしたら速く正確に弾けるか、レコード(古いですね)を繰り返し聴きました。そして、こうした経験は確実に今の自分の糧となっています。「学びに向かう力」を少し広く捉え、子どもたちが興味・関心を広げていく態度や姿勢もその一つと考えたいです。そして、各ご家庭、地域、学校、教育委員会が一体となって、子どもたちを応援していきましょう。



好きこそものの上手なれ
教育委員会委員 宇田 剛

教育委員会委員コラム